

次なる授業アンケートへ(Next)

教育開発支援センター長 若本夏美

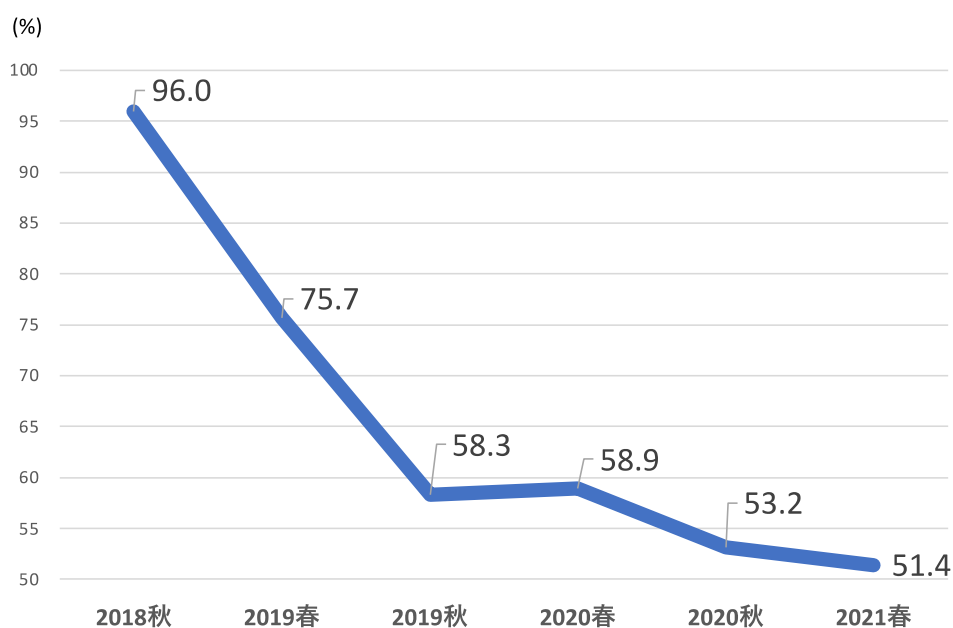
はじめに

こんにちは。このページをめくって頂きありがとうございます。

同志社女子大学の2021年度春学期は前年度に引き続き、苦難と緊張感を強いられる状況でした。4月は対面授業で順調にスタートいたしましたが、5月～ほぼ6月一杯は遠隔授業、7月に対面授業に戻るといった変則的な授業形態となりました。新型コロナウイルス感染症の影響により全面的に遠隔授業をせざるを得なかった前年度(2020年)春学期と比較し、教員も学生も遠隔授業のスタイルや手順には慣れてきている感があったものの、昨年度の秋学期、ほぼ対面授業(一部オンデマンド型授業がありました)に戻り、もう全面的に遠隔授業になることはないだろうと希望的観測を持っていた教員・学生諸姉には、二度目の遠隔授業による心理的損傷は少なくなかったと思います。長期的な展望を持つことの重要性を再認識するところです(英・ケンブリッジ大学は2020年の早い段階で対面授業に戻るのは2021年秋からと決定していたようです)。

このような状況であるからこそ、授業アンケートを通して、遠隔授業と対面授業の組み合わせ方など、2020年代の授業の在り方の資料としたいと、本年度春学期授業アンケートに向けての教育開発支援センターの意気込みは並々ならぬものでした。

図1. 授業アンケート回答率の推移(過去6回)



前回（2020 年度秋学期）の状況を踏まえ、教育開発支援センター運営委員会では回答率向上の対策として数回の運営委員会を費やし議論を重ねました。映画に例えるなら、これまでのペーパー・ベースの授業アンケート（2018 年度秋学期まで）が希望に満ちた「スターウォーズ、新たなる希望（第一作）」だったとすると、デジタルベース（manaba 上）の過去 2 年間 4 回のアンケートは、暗闇を彷徨う「帝国の逆襲（第二作）」という位置づけになるでしょうか。映画ならここで「ジェダイの復讐（完結編）」となりハッピーエンドとなるはずだったのですが、現実にはジョージ・ルーカスが描いた映画 3 部作とは異なり、厳しい結果となりました（図 1 参照）。

回答率向上のための対策

ここで、備忘録も兼ねて、運営委員会で議論された案を列举しておきたいと思います。

- アンケート回収期間の延長（2 週間を 4 週間へ）
- 教員への周知徹底（特別のハンドアウトの作成、配布）
- 学生（受講生）への周知徹底

教員への周知徹底については、授業アンケート実施前に 2 ページからなる実施要項をメールで送付しました。回答率向上にむけた意識向上のために、過去 5 回の回答率をグラフにしたものも文書に含めました（図 2 参照）。またアンケート結果確認のためのマニュアルもこれまで通り添付しています（図 3 参照）。

図 2. 教員向け案内

2021 年 7 月

科目担当者 各位

同志社女子大学 教育開発支援センター長
若本 夏美

2021 年度春学期 授業に関するアンケートの実施について（お願い）

平素は本学の教育にご尽力賜りありがとうございます。
標記アンケートを、下記のとおり実施いたしますので、何卒ご協力くださいますようお願い申し上げます。

記

- 授業アンケートは「マナビー」（本学授業支援システム）にて実施します。
- 実施期間は **2021 年 7 月 9 日（金）～ 8 月 5 日（木）** です。
当該期間内に、学生にスマートフォンから授業アンケートに回答するよう指示してください。（回答時間目安：10 分程度）

回答率向上にご協力ください

- ・2019 年度より授業アンケートは紙での回答を廃止し、マナビーにて実施しておりますが、大変残念ながら、回答率は著しく下降しております。
授業アンケートを回答するよう、学生に対する周知および授業内での実施にご協力を賜りますようお願い申し上げます。
- ・どの学生が未回答であるかを確認することはできませんが、回答速報でその時点の回答者数を確認することができます。回答者数が少ないような場合は、できるだけ授業やマナビーで、未回答者は速やかに回答するよう促してください。
- ・なお、2021 年度より嘱託講師の皆様におかれましては「授業振り返りシート」のご提出にご協力をお願いしております。授業振り返りシートの中で、授業アンケートの結果をご確認いただく項目もございますので、ご留意いただきますようお願いいたします。



1/2

図 3. 教員向けマニュアル

マナビー上での授業に関するアンケート結果確認マニュアル（教員向け）

「授業に関するアンケート」の回答速報は、マナビー上に即時反映されます。教員の皆様は、マナビーにログインして結果を閲覧することができます。また、すべての回答期間が終了してから一定期間を経ると、アンケートの科目（クラス）別集計結果をマナビー上から確認することができます。なお、マナビーログイン後の画面下部「マニュアル」ボタンから、このマニュアルに類似のマニュアルを表示することができます。

■アンケート結果確認方法

同志社女子大学ホームページ「教職員の方へ」から授業支援システム「マナビー」にログインしてください。
<https://manabi.dwc.doshisha.ac.jp/cf/login>から表示可能です。
 ※ユーザID/パスワードを忘れた場合は、ヘルプデスクにお越しください。
 ※教務課もしくは嘱託講師控室へお申し出ください。

1. マイページの「大学からの課題・アンケート」からアンケートのタイトルをクリックします (A)。
2. 結果を確認したいコース名（授業科目名）を選択します (B)。
3. 「集計シート」ボタン (C) をクリックすると、集計途中の生データ（速報）を Excel でダウンロードできます。※自由記述欄への回答も含まれます。
4. 「グラフ表示」ボタン (D) をクリックすると、集計途中のグラフが表示されます。

【注意事項】

- ・集計シートには、回答者のユーザIDや氏名、学籍番号などは表示されません。
- ・スマートフォン版画面からは集計シートはダウンロードできません。
- ・集計シート、グラフおよび自由記述は、教員のみ確認できます。学生には表示されません。

■アンケートの科目（クラス）別集計結果返却（回答期間終了後）※自由記述欄への回答は含まれません。

マイページの「大学からの課題・アンケート」から、アンケートのタイトルをクリックし、確認したいコース名（授業科目名）を選択します (E)。集計結果が公開されていれば、「結果・フィードバック」欄にファイルが添付されています (F)。

■フィードバックコメント 記入方法（任意）

集計結果に関して、当該科目受講生全員に向けてフィードバックコメントを記入することも可能です。課題集計画面で「結果・フィードバック」の「編集」ボタン (G) をクリックします。本文を入力して、「更新」ボタン (H) をクリックすると、登録完了です。
 ※下書き保存はできません。
 ※「更新」ボタンをクリックすると、即公開となります。ご注意ください。

また嘱託講師控室には、授業アンケート促進掲示物二種を、授業アンケート実施前に設置しました（図 4、5）。

図 4. アンケート促進掲示 A

2021年度春学期 授業に関するアンケート 実施のご協力をお願い

授業改善のための資料として活用します！

2019年度より授業アンケートは紙での実施からマナビーへの実施へと変更されました。それまで95%以上の回答率だったのが、マナビーに移行してからは回答率が下がり、2020年度は50%まで落ち込んでいます。授業アンケートは、授業の改善を図るために学生の皆さんの率直なご意見を聞かせてもらう貴重な機会です。
より良い授業を作っていくためにも、ぜひ回答いただくようお願いいたします。
このアンケートは匿名にて実施されます。

実施期間
2021年7月9日(金)～ 8月5日(木)

※一部、早期に実施している科目あり※

回答方法
アンケートが開始されると、マナビーの「マイページ」上部に「大学からの課題・アンケート」が表示されます。学生へ回答するようお声がけください。

注意事項

学生は教員からの指示を待ってアンケートに回答するため、必ず回答するように声をかけてください。

STOP

任意の質問を1つ設けることができます。その場合は、7月22日(木)までにマナビー等を通して質問と回答項目を学生に指示してください。

7月23日(金)以降は学生が自分の判断でアンケートに回答します。

今年度より記入いただく「授業振り返りシート」には授業アンケートの結果に関する項目があります。

図 5. アンケート促進掲示（卓上）

You can check students' responses immediately. Manavi etc by 7/22(Fri). about the questions and choices on the questions on the survey. If you would like to set, please inform the students to set your own optional the students to answer the survey. The course evaluation survey will be conducted using Manavi. Please inform the students to answer the survey. From July 9th to August 5th Request: Implementation of the Student Course Evaluation Survey 授業アンケート実施のお願い 実施期間：7/9(金)～8/5(木) - 授業アンケートは「マナビー」で実施します。学生に授業アンケートに回答するよう指示してください。 - 授業アンケートでは担当者が任意の質問項目を設けることができます。その場合は、7/22(木)までに質問および回答をマナビー等を通して事前に指示してください。 ←教員はここから回答速報を確認！	You can check students' responses immediately. Manavi etc by 7/22(Fri). about the questions and choices on the questions on the survey. If you would like to set, please inform the students to set your own optional the students to answer the survey. The course evaluation survey will be conducted using Manavi. Please inform the students to answer the survey. From July 9th to August 5th Request: Implementation of the Student Course Evaluation Survey 授業アンケート実施のお願い 実施期間：7/9(金)～8/5(木) - 授業アンケートは「マナビー」で実施します。学生に授業アンケートに回答するよう指示してください。 - 授業アンケートでは担当者が任意の質問項目を設けることができます。その場合は、7/22(木)までに質問および回答をマナビー等を通して事前に指示してください。 ←教員はここから回答速報を確認！
---	---

学生に向けては、授業アンケートが「より良い授業を作るためには必要である」ことを学生に訴求する内容や、教員が授業内での実施できなかった状況を想定し、7月23日以降には自由にアンケートに回答してほしい旨の内容を大立て看板およびデジタルサイネージにて掲示し、またマナビーのログイン後のニュースにも掲載しました（図 6）。教育開発支援センターとしては運営委員会の議論をもとに万全の広報体制を敷いたと自負していました。

図 6. アンケート促進掲示物（学生向け）

2021年度春学期 授業に関するアンケート 回答のお願い



授業を受けた皆さんの率直な声を聞かせてください

2019年度より授業アンケートは紙での実施からマナビーへの実施へと変更されました。それまで95%以上の回答率だったのが、マナビーに移行してからは回答率が下がり、2020年度は50%まで落ち込んでいます。授業アンケートは、授業の改善を図るために学生の皆さんの率直なご意見を聞かせてもらう貴重な機会です。皆さんにとってより良い授業を作っていくためにも、ぜひ回答いただくようお願いいたします。匿名のアンケートですので、忌憚のないご意見をお聞かせください。

実施期間
2021年7月9日(金)～ 8月5日(木)
※一部、早期に実施している科目あり※

回答方法
アンケート回答可能期間になると、マナビーの「マイページ」上部に「大学からの課題・アンケート」が表示されます。科目ごとに回答してください。

注意事項

無記名での回答であり、**回答者の情報は一切教員には伝わりません。**



アンケートの質問について、教員から個別の指示がある場合があります。
7月22日(木)までは教員から指示があるまで回答しないでください。

一度提出したアンケートは、**再提出できません。**



7月23日(金)以降は自由にアンケートに回答してください。

同志社女子大学 教育開発支援センター

一方、運営委員会では質問紙の信頼性と妥当性を高め、教員にとっても学生にとってもより有用性の高いものに変革していくべきであるという議論が継続的にあります。その観点から、2021 年度春学期は広報体制に留まらず、アンケート内容についても改善を加えています。

まず尺度の問題があります。2019 年度春学期に紙ベースの授業アンケートからオンライン（朝日ネット社 manaba 利用）でのアンケートに切り替わった際、これまで通り「4 件法」（そう思う、ややそう思う、あまりそう思わない、そう思わない）を維持し、教員への配付する結果個票では、グラフ作成の利便性から得点を 4→1、3→2 などと逆転化して表示していました。しかし、この個票は manaba のシステム上、回答が 5 段階に固定されてしまっており、2019 年度春学期～2020 年度秋学期の 4 回に渡っては、個票に表示された尺度は「そう思う Agree→5、ややそう思う Somewhat Agree→4、あまりそう思わない Somewhat Disagree→3、そう思わない Disagree→2、未回答→1」となっていました。「未回答」は平均得点から除外して別基準とすべき（「授業アンケート総評 2019 年度春学期」）でしたが、これまで実現していませんでした。この点については、朝日ネットとも交渉し、この 2020 年度春学期より未回答は「その他」項目にカウントし平均点から除外することになりました（図 7、個票の関係上、表示上は「1」という欄は存在します。また DWCLA10 など他の項目で必要な場合もあります）。

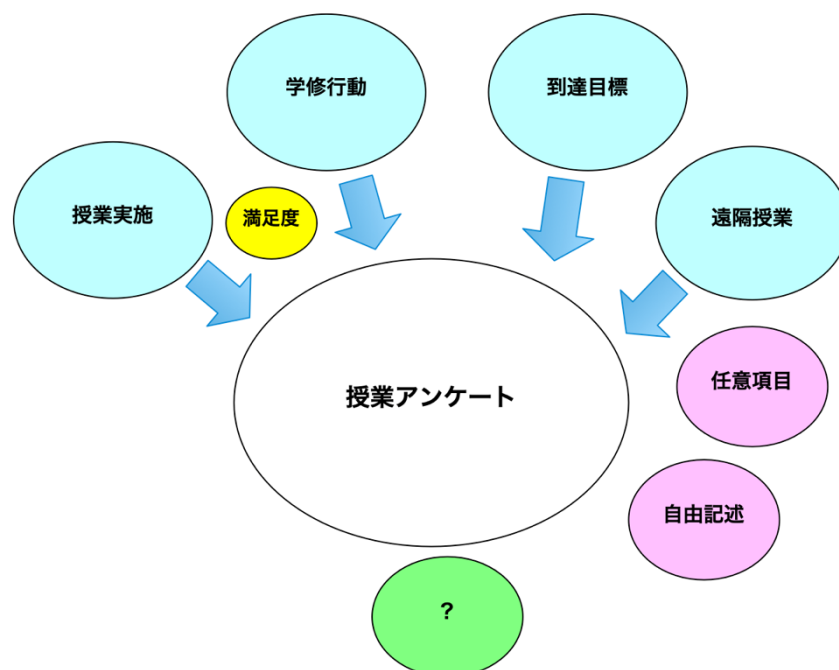
図 7. 尺度のカウント方法の改良

そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	未回答
5	4	3	2	1

そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない		未回答
5	4	3	2		その他

更に、授業への満足度を尋ねる項目（Q9「この授業は全体として満足できる内容でしたか」）を追加しています。これは到達目標を尋ねる項目（Q15、「あなたは到達目標を達成できたと思いますか」）はあっても、授業全体を包括的に評価する項目がこれまで不足していたためです。現在の授業アンケートは4つの構成概念（「授業実施に関する質問」「この授業のための学修行動に関する質問」「この授業の到達目標に関する質問」「遠隔授業に関する質問」）から成り立っていますが（図 8）、この満足度をどの部分に関連付けるのか又は新たな構成概念としてとらえるのかは、今後議論を待ちたいと思います。

図 8. 授業アンケートの構成概念（現行）



回答率（全体・各学科別）

さて、ここで、回答率について、学科毎の動向を探ってみましょう。

図 9. 授業アンケートの実施率推移（春学期：2020 年-2021 年：
グラフ中の各学科・科目区分は p. 16 に表示）

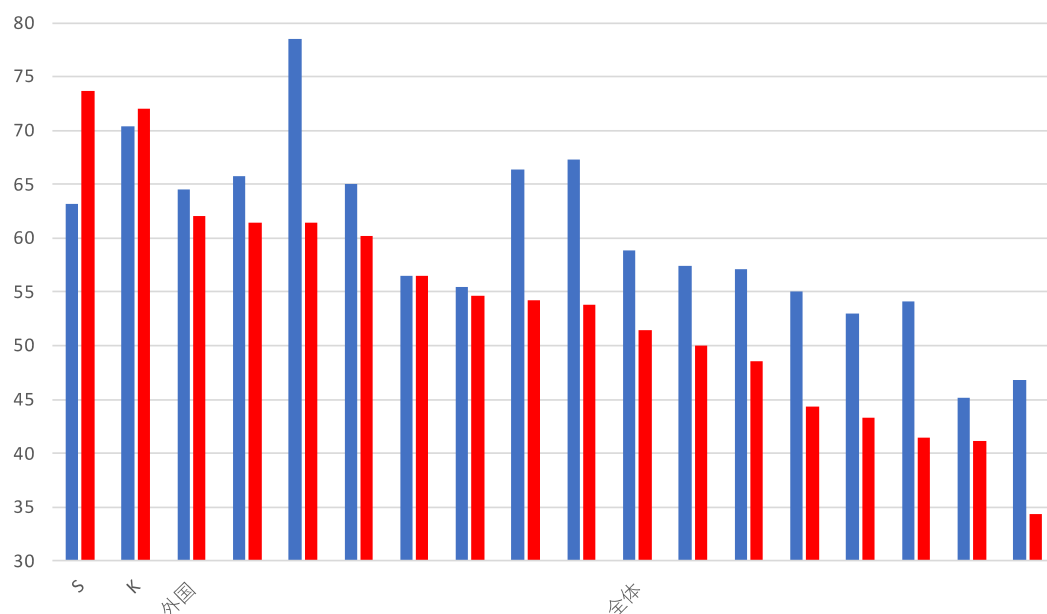


図 9 に示すように、前年度の春学期と比較してみると、全 17 区分の中で 50%を上回ったのは 11 区分。最も回答率の高いのは「食物科学専攻」(73.7%)、次いで「国際教養学科」(72.0%)、「外国語科目」(62.0%)、「英語英文学科」(61.4%)と続きます。

1 年前の春学期と比較して回答率が向上したのは「食物科学専攻」(+10.5%)、国際教養学科」(+1.6%) の 2 学科です。逆に下がってしまったのは「スポーツ・健康科目」(-17.1%)、「教職に関する科目」(-13.5%)、「医療薬学科」(-12.6%)、「音楽学科」(-12.4%)、「現代こども学科」(-12.2%)、「共通学芸科目」(-10.7%)、「社会システム学科」(-9.7%)、「メディア創造学科」(-8.5%)、「看護学科」(-7.4%)、「キリスト教・同志社関係科目」(-4.8%)、「英語英文学科」(-4.4%)、「人間生活学科」(-4.0%)、「外国語科目」(-2.5%)、「日本語日本文学科」(-0.9%)、「管理栄養士専攻」(増減なし)、という結果でした。

図 10 では直近の学期(2020 年度秋学期)との増減率を示しています。前学期と比較すると回答率が増加している学科が多くあります。「食物科学専攻」(+11.4%)、「外国語科目」(+7.8%)、「日本語日本文学科」(+6.6%)、「キリスト教・同志社関係科目」(+6.4%)、国際教養学科」(+3.4%)、「メディア創造学科」(+1.84%)、「英語英文学科」(+0.4%)。

図 10. 授業アンケートの実施率推移（2020 年秋学期-2021 年春学期：
グラフ中の各学科・科目区分は p. 16 に表示）

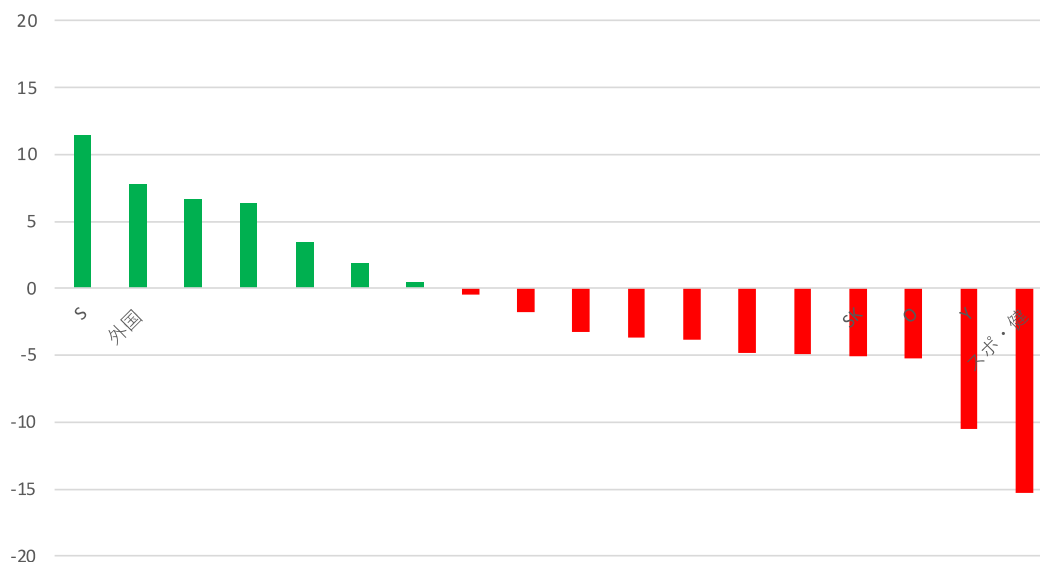


図 10 が示すように、全ての学科が低落傾向にあるわけではなく、上昇傾向にある学科にも注目してゆく必要があると思います。この総評を機に、各学部・学科会議等でこの授業アンケート回答率を議題として取り上げて頂き、2021 年度秋学期にはどの学科も 50%以上の回答率、前学期又は前年度同学期比での好転を念願するところです。

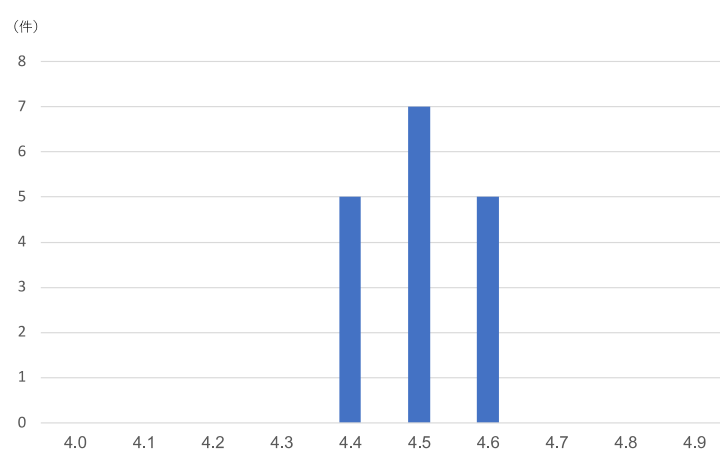
各項目の比較

さて、本年度の結果について、これまで蓄積してきた授業アンケートとも比較しながら、以下、概観してみたいと思います。この総評は、既に教務部で分析された「報告書」をもとに総括することを意図しています。まず、2021 年度の授業アンケートより導入された満足度についての質問項目から検討を始めたいと思います。

Q9. 満足度

「この授業は全体として満足できる内容でしたか。」

図 11. 遠隔授業実施 (Q9, 2021 春)



4 件法で分岐点が 3.5 (3.5 以下は否定的、3.5 以上は肯定的)であることを考慮に入れると、2021 年度春学期の授業はどの学科・科目区分とも授業に対する満足度は非常に高いと言えます。図 11 が示すようにほぼ 4.5 に回答の平均点が集中しています。これは本学としては喜ばしい結果と言えます。次は各学部・学科で科目による満足度を検討し、満足度の非常に高い科目からはその秘けつを学び、仮に満足度の低い科目(群)があれば改善策を検討する必要があると思います。授業に対する包括的な満足度は、いわば他の項目を総括する究極の授業アンケート項目であり、各学部や学科、ひいては大学の盛衰を占う重要項目です。

Q14. 到達目標達成

「あなたは到達目標を達成できたと思いますか。」

図 12. 到達目標達成 (Q15, 2021 春)

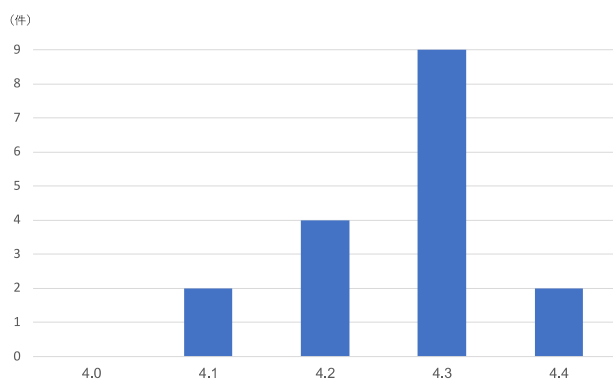
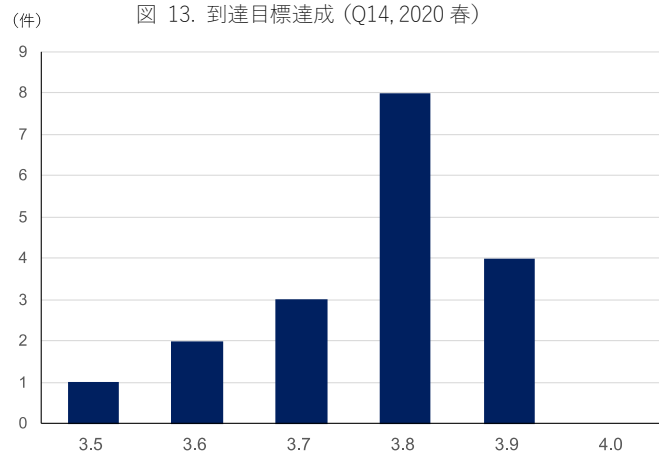


図 13. 到達目標達成 (Q14, 2020 春)



同じ区分の平均値が 3.8 (2019 年度春学期) → 3.8 (2020 年度春学期) → 3.9 (2020 年度秋学期) → 4.2 (2021 年度春学期) と向上しています。また前年度と比較すると各学科・科目群の相違が小さくなっているのも特徴です。このあたりにも対面授業・遠隔授業への受講生諸姉の適応能力の高さが到達目標の達成につながっているのかもしれません。

Q18. 遠隔授業

「遠隔での授業は滞りなく行われましたか？」

2021 年度春学期はどの授業もほぼ半数の回数が遠隔授業、また一定数の科目が全て遠隔授業になったことを考え合わせると、この項目も最も注目すべきものの一つとなります。

図 14. 遠隔授業実施 (Q18, 2021 春)

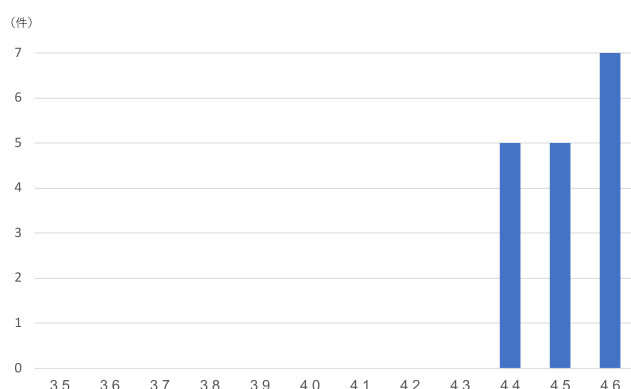


図 15 遠隔授業実施 (Q17, 2020 春)

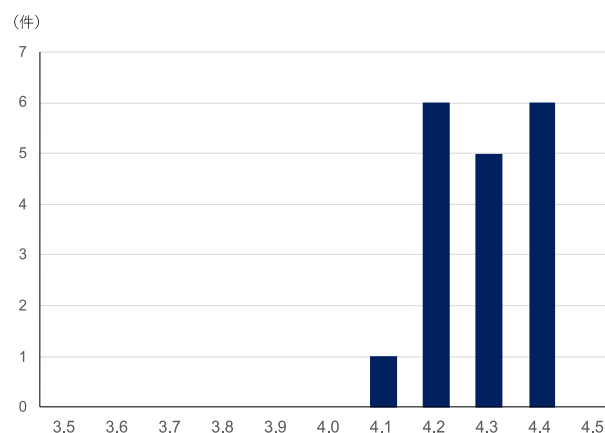
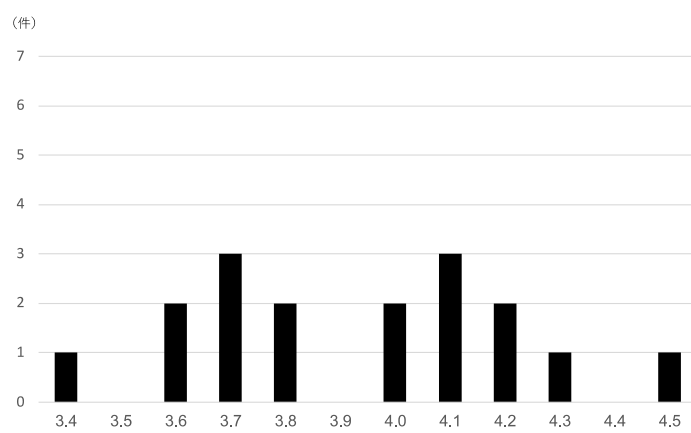


図 16. 遠隔授業実施 (Q17, 2020 秋)



2021 年度春学期の遠隔授業の結果（項目追加により Q18 となっている）をこれまでの結果と比較すると興味深い事実が浮かびあがってきます。2020 年度春学期は多くの教員にとって初めての遠隔授業であったのにも関わらず概ねスムーズに実施されている（図 15）。前年度秋学期、多くが対面授業に移り遠隔授業として実施されたものはほぼオンデマンド型のものでした。そのせいか、遠隔授業の実施は困難を極めたように映ります（図 16）。2021 年度春学期、学期の半分を再び遠隔授業（双方向・オンデマンド型）に移行しましたが、過去 2 つの学期と比較してその評価は明らかに向上しています（図 14）。これにはいくつかの解釈の方法があるでしょうが、最も妥当な説明は「熟達」だと考えられます。教員も学生諸姉も遠隔授業の方法に慣れ、教員は前年度よりも自信をもって授業を行い、学

生諸姉も遠隔授業の特徴を理解して効果的に授業を受けたのではないのでしょうか。この点は更なるデータの集積が必要ですが、本学教学にとっては明るい兆候といえると思います。

Q16. DWCLA10

「DWCLA10 の内、この授業の履修を通してその獲得や向上に役立ったと感じられるものをすべて選んでください」

図 17. 学科・科目区分の分布 (DWCLA 10, 2021 春)

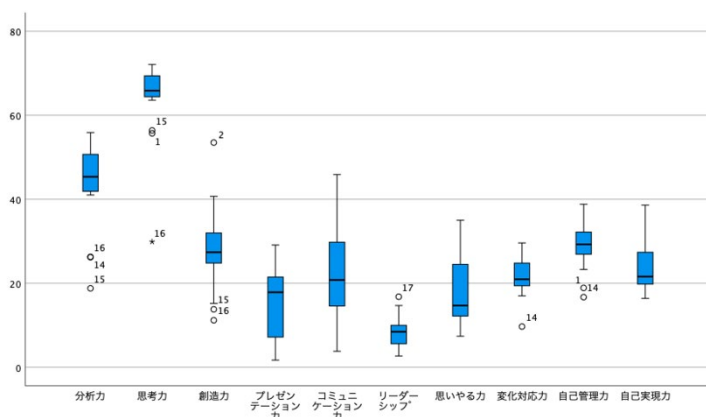
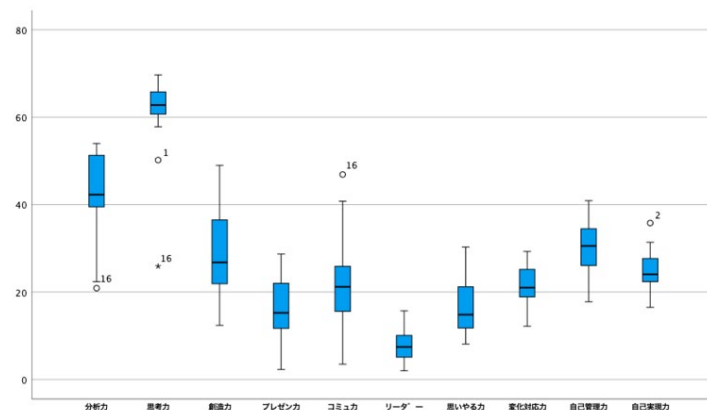


図 18. 学科・科目区分の分布 (DWCLA 10, 2020 秋)



2020 年度秋学期と比較してみると (図 17 と 18)、その結果は非常に似通ったものであることに気づきます。DWCLA10 の中で最も選択率の高かった項目という点では、1 位) 思考力 (平均、64.0%)、2 位) 分析力 (43.6%)、3 位) 自己管理能力 (29.2%)、逆に低かった項目は、10 位) リーダーシップ (8.5%)、9 位) プレゼンテーション力 (16.2%)、3 位)、思いやる力 (17.9%) でした。この順位は前年と全く同じで、数値にも大きな変動はないように見えます。平均値の低い 3 項目について少し考えてみたいと思います。まず、リーダーシップと思いやる力ですが、これはもともと DWCLA10 で意図されている概念とこの表現の乖離に数値の低い原因があるように思われます。DWCLA10 が制定された当時の資料を参照すると、思いやる力でもともと期待されていたのは「違いを尊重する能力」であり「相手の気持ちになって行動する力」です。具体的には協働的に行動する力であって、この思いやる力という表現からは、本来の意図された趣旨はくみ取ることが困難なのではないでしょうか。もし、「思いやる力」から趣旨に現在の教育状況を加味し「コラボレーション力」に表現を変更するとアクティブラーニングを目指す授業内容と合致し、選択率も高まる可能性があります。リーダーシップに関しても同様です。ゼミナール科目や PBL (Project Based Learning) では確かにリーダーシップを取ることができる場面があるかもしれませんが、講義科目など広範な授業に目を向けるなら「ファシリテーター力」とするほうが妥当かもしれません。アクティブラーニングの中核は授業内ディスカッションであり、そのディスカッションをどのように活性化するかが大きな課題になっています。議論の中でリーダーシップを取るとはディスカッションを活性化しいろいろな議論を引き出す力といえます。そもそもこの項目のみ「力」という言葉が付いていないところにも 10 項目の一貫性を損なう側面を持ってしまっているように見えます。これまでの総評でも提案されていますが、このような部分を含め、2020 年度の同志社女子大学の目

指すべき授業、現在のアクティブラーニングの動向なども踏まえ、DWCLA10 の見直しの時期に来ているのではないのでしょうか。

最後に授業アンケートの各項目の結果の中で注目すべきものを検討しておきたいと思います。この総評では大学全体の傾向を議論することを主目的とし、従来の学科・科目区分別の結果分析については各学科で御議論いただく方がよいと考え、今回も省略します。

Q10. 自主学習

「この授業について、授業時間、予習、復習、自主学習すべて含めて1週当たり平均どれくらい時間をかけましたか。」

図 19. 授業外学習時間（Q10, 2021 春）

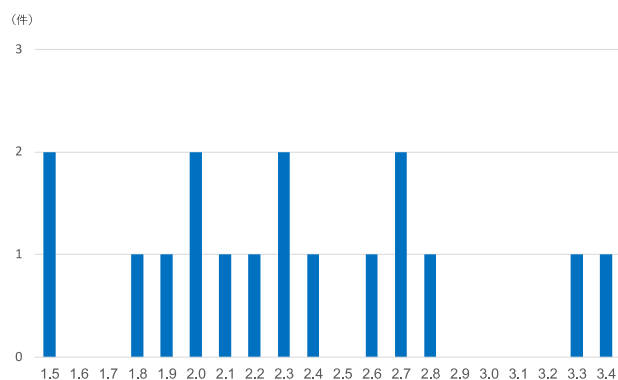
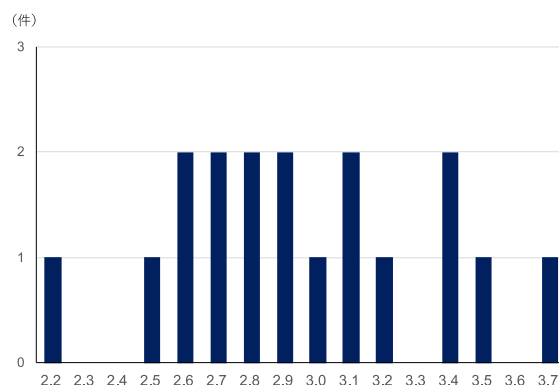


図 20. 授業外学習時間（Q9, 2020 春）



同じ区分の平均値が 1.9（2019 年度春学期）→ 3.0（2020 年度春学期）→ 2.5（2020 年度秋学期）→ 2.3（2020 年度春学期）と今学期に限って、下降傾向を示しています。これまでになかった 1 点台の学科・科目区分が 4 つ出現しています（図 19 と 20 を対比）。1＝30 分未満、2＝1 時間未満であることを考え合わせると、2 点未満は課外学習がせいぜい 1 時間にも満たないことを示しています。授業外学習の低下は学習への興味関心の低下と捉えられます。新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中で学習だけでなく大学生活全般に対する倦怠感が蔓延しているのかもしれません。これは本学としても危険な徴候として注視する必要があります。

Q7. 自主学習

「自主学習を促す工夫がなされていましたか。」

同じ区分の平均値が 4.0（2019 年度春学期）→ 4.2（2020 年度春学期）→ 4.1（2020 年度秋学期）→ 4.3（2021 年度春学期）と順調に伸びています（もちろん、今学期より尺度の修正を行っていますので、この影響でこれまでよりも高い目の数値が出ている可能性があります）。

図 21. 自主学習（Q7, 2020 秋）

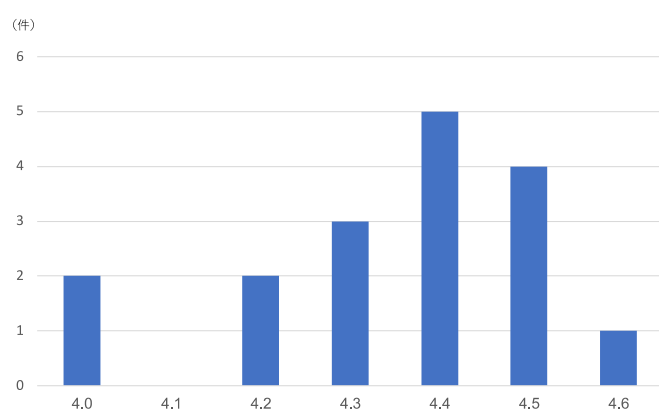
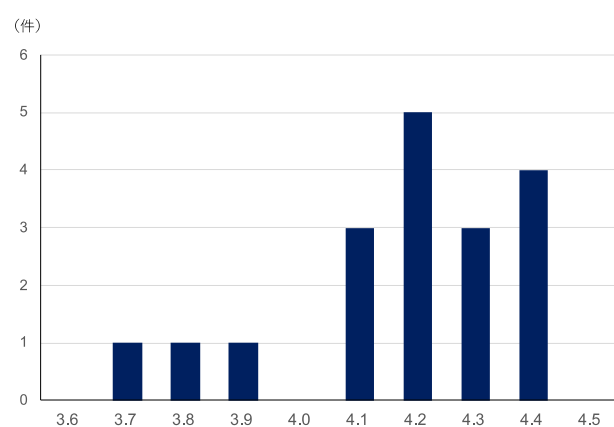


図 22. 自主学習（Q7, 2020 春）



しかし、度数分布が示すように（図 21、22）、全ての学科・科目区分で 4 以上となり、教員から学生への自主学習を促す工夫はより精緻になされているようです。であれば余計に自主学習時間が少なくなってしまう事の問題の深刻さが浮かびあがってきます。すなわち、教員からの働きかけだけでは十分ではないことを示しているからです。今後は、吉見（2021）が主張するように、抜本的な改革、例えば、2 学期制から 4 学期（クォーター制）などへ移行することによって海外の大学のように受講科目数を減らしその代わり、週 2 回や 2 時間連続などの時間割により、より集中して学ぶ方法などを検討する必要があります。

まとめ

30,594 名（2020 年度春学期は 28,902 名）という膨大な授業アンケートへの参加者数が示す通り、本学にとって貴重なリソースとなった授業アンケート。結果分析を見られてどのような感想を持たれたでしょうか？

冒頭でも述べたとおり、対同年度春学期比で、回答者が 7.5%、人数で約 3600 名（延べ）も減少している危機的な状況にあるのには変わりはありません。教育開発支援センターとしては万全と思った対策を講じたにも関わらず回答率の減少に歯止めをかけることができなかったことには多少の無力感と抜本的な改革をする必要を感じる所です。3つの方向性があると思います。

一つの方向性は実施の自律性です。現在は全学として共通項目の授業アンケートを実施しています。一方で、学部・学科のカリキュラム向上にはその学部・学科に特化した質問項目が必要となると思います。例えば、私は現在英語英文学科に所属していますので、学科の科目を通して「英語の運用能力が向上したかどうか」尋ねてみたい気持ちになります。もちろん、これは満足度や到達目標達成度からうかがい知ることができますが、カリキュラムを変える次のステップにはなりにくいのが実情です。もし、学部・学科の独自質問項目を含めるようにすれば、そのための議論も沸き起こると思いますし、結果についてもより一層多くの教職員が興味関心を持って頂けるようになると思います。

二つめの方向性は DWCLA10 に象徴されるような本学の教学にとって極めて重要な項目を定期的に見直すことです。STEM (Science, Technology, Engineering, Mathematics) など近年よく目にする言葉に踊らされる必要はないと思いますが、2021 年同志社女子大学 FD 講習会で講演をして頂いた杉森公一先生が紹介されておられたような「4つの認知能力」（アウン、2020）などを参考に「New DWCLA10」に発展させてゆくことが肝要であろうと思います。DWCLA10 は教員にとっても学生諸姉にとってもいわば学びの灯台ともいえるべきものです。分かりやすくかつ未来を切り拓くキーワードが大切だと思います。

三つ目の方向性はビッグデータの活用です。IR (Institutional Research) や DX (Digital Transformation) という言葉をよく耳にしますが、この授業アンケートの結果を AI を使いまは専門職のデータサイエンティストによってより詳細かつ有効に分析する必要があると思います。教育開発支援センターには専任教職員は存在しません。兼担の中で職員の皆さんには規定の仕事以上の創造的な活動をして頂いています。今こそ未来を見据えて授業アンケートという貴重なデータを有効に活用するより組織的活動を始める時期です。教員のみに振り返りシートの作成を依頼するのではなく、大学としての振り返りとしてのデータ分析が必要となると思います。カリキュラムとしては来年 2022 年度に「(仮称) データサイエンス基礎」を全学共通科目として新設することが検討されています。これは学生の数理・データサイエンス・AI への関心を高め、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的とするものですが、それと同時に教職員にもまた本学の教学にもこのデータサイエンスの視点が必要であると思います。

教育開発支援センターの構成メンバー（教員・職員）は年々変わってゆきます。しかし、メンバーが変わろうとも、変わらないものがあります。それは同志社教育の原点である「良心教育」を大切にしようとする姿勢です。更に、良心教育が発展し「教員の授業内

容や方法の改善および教育に対する意識の向上に向けて」、教育開発支援センターはこれからも「教員と学生の間に立つ組織として」組織的な取組みを続けてまいります。今後とも、センターへの変わらぬご支援・ご協力をお願いして、今回の総評を終わりたいと思います。最後まで読み進めていただき、ありがとうございました。

Q1. シラバスとの合致

Q2. 受講生の理解度

Q3. 授業レベル

Q6. 理解を促進する工夫

Q10. 積極性

Q11. 授業や関連分野への意欲

Q13. 到達目標達成への指導

<凡例>

掲載グラフにおける各学科・科目区分の略称は以下の学科等を表している。

O	音楽学科科目
MS/J	メディア創造学科/情報メディア学科科目
K	国際教養学科科目
G S	社会システム学科科目
G K	現代こども学科科目
Y	医療薬学科科目
K G	看護学科科目
E	英語英文学科科目
N	日本語日本文学科科目
L	人間生活学科科目
S	食物栄養科学科食物科学専攻科目
S K	食物栄養科学科管理栄養士専攻科目
共通	共通学芸科目
キ・同	キリスト教・同志社関係科目
外国	外国語科目
スポ・健	スポーツ・健康科目
教職	教職科目

参考文献：

アウン、ジョゼフ・E・. (2020). 「Robot Proof: AI 時代の大学教育」 (杉森公一他, Trans.). 森北出版.

吉見俊哉. (2021). 「大学は何処へ：未来への設計」. 岩波新書.